



○「いのち」について考える

今から17年前の平成15年7月1日。長崎市において当時4歳の幼児が中学生によって殺害される事件が発生しました。その一年後、平成16年6月1日には、佐世保市で当時6年生の女子児童が同級生に殺害される事件が発生し、さらにその10年後、平成26年には同じく佐世保市で高校生が同級生を殺害するという事件が起きました。こうやって文字に起こすだけでも、自分の中に再び衝撃が走る思いです。

昨日は、全校集会において「いのち」について考える講話を行いました。子供たちはそれぞれの発達段階に応じて、真剣に話を聞き、あらためて「自分のいのち」「他人のいのち」について考えることができていたように感じています。

今日の講話の概要を掲載しますので、機会があればご家庭においても「いのち」について語り合っていたいただければと思います。

【校長講話】

今日から7月。途中、新型コロナウイルス感染防止のための臨時休業がありましたが、令和2年度がはじまって3か月となりました。みなさんの学級や学年の学びの様子はどうですか。

校長先生の感想を言います。「南陽小の子供たちは素晴らしいなあ」ということです。新型コロナウイルスの関係で、運動会などの行事が延期になったり、勉強の予定が変わったり、思いっきり歌えなかったり、体育で触れ合えなかったりして、思い通りにいかないことも多かったと思います。しかし、南陽小学校の子供たちはびくともしない。トイレのスリッパはいつもよく並んでいるし、雑巾もきちんとかけてある。誰かが話すときにしっかりその人を見て「あなたを大切に思っていますよ」という思いを目に見えるようにしている。無言掃除もずいぶん意識できてきている。おまけにこの前の代表委員会では、自分たちで「ワンストップあいさつ」ができるようになろうという話し合いをし、実践の努力をしている。まさに素晴らしい学校の基礎がかなりできてきたように思っています。

みんな、自信をもってください。このままみんなで成長して、みんなで南陽小学校の楽しさをつくっていきましょう。

さて、今から校長先生はみんなと一緒に「いのち」について考えてみたいと思っています。

「いのち」みんなは、もっていますか？（児童：もっています。あたりまえじゃないですか）

では、いのちをいくつ持っていますか？（児童：ひとつですよ）

あら、ふたつの人いませんか？いませんよね。

その通り、いのちはみんながそれぞれ一つしか持ちませんね。

では、これを見てください。（ホワイトボードに長い直線を書く）

左端が0歳。右端が100歳。みんなは、だいたい10歳だとして、このあたり。校長先生は半分くらいのこのあたり。

日野原重明さんというお医者さん（写真提示）の「いのちのおはなし」という絵本を今日もってきていますが、その本の中にこんなことが書いてあります。（裏面へ続く）

「いのちは君たちがもっている時間だといえます」。お医者さんがこんなことを言うのはおかしいかもしれませんが・・・と日野原さんは続けます。心臓は大切ですが、いのちそのものではありません。心臓はいのちを動かすモーターで、心臓が止まったら人間は死んでしまい、つかえる時間もなくなるのです。いまみなさんは、どのようにでも使える時間を持っている。その時間の中で、いのちをどのように使うか、これが大切なことです。

みなさん、さらにお尋ねをします。「こころ」はどこにありますか？（児童：頭を押さえたり、胸を押さえたり・・・）

どこかよくわからないね。でも、こんな言葉があるよ

「心はみえない、でも心づかいは見える」「思いは見えない、でも思いやりは見える」。

日野原さんは、「こころ」は、お互いに一緒に生きていくこと中で育つもの、「こころ」とは「自分以外のことのために自分の時間をつかうことと」おっしゃっています。

さっきのいのちの話と併せると、自分ももっていて自分が自由に使える「いのち」だけれども、それを自分のためだけでなく、他の人のためにもつかっていくことで、もっともっと輝きを増すのではないのかなと校長先生は思うのです。

例えば、朝のあいさつ。笑顔いっぱい気持ちのいい挨拶をしてくれる人は、それだけで相手を幸せにしています。早く学校に着きたいと思っていても、転んでけがをした低学年のために自分の時間をたっぷり使ってくれる高学年もいますね。トイレのスリッパ並べも、次の人のことを思って自分の時間をつかって行うものですね。

いのちは一つしかない。限りある時間の中で、自分だけでなく他の人のためにもこの時間を使うこともとても大切なことですね。

さて、この大切な命ですが、長崎県では、平成15年に4歳の男の子、16年には小学6年生、26年には高校生がいきなり命を奪われるというむごい出来事が起こっています。

（ホワイトボードに書いた）この直線のここあたりで、いきなり命を奪われたのです。絶対に許せないことです。

自分で自分のいのちをなくすということも起きている。とても悲しいことです。原因は様々あるのですが、嫌なことを言われたり、無視されたりといった「いじめ」もあると考えられます。

まとめます。「いのち」は一つしかない。だから絶対に大切にしなければならない。「いのち」を「時間」ととらえると、この「いのち」の時間を自分のためだけでなく、他の人のためにも使うことで、結果として自分の「いのち」もさらに輝きが増す。

普段の生活の中でも、自分のいのち、他人のいのちを大切にすることを考えることで、南陽小学校全体の輝きが増すのではないのでしょうか。言葉を大切に、いじめを絶対にしない・許さないということも大切ですね。

今日のお話は「いのち」について考えてきましたが、よく考えると、いつも校長先生が言っている「みんなで楽しさをつくる学校にしよう」ということにもつながっていると思います。

今日も、しっかり校長先生の話聞いてくれて、そして反応してくれてありがとうございます。

これでお話を終わります。

※集会の様子は、画像を南陽小学校ホームページにアップしていますのでどうぞご覧ください。

